

知事と区市町村長との意見交換（武蔵村山市）

令和1年10月3日（木）

14時00分～14時20分

○**行政部長** それでは早速ではございますが、意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事から一言お願いいたします。

○**知事** 藤野市長には今日は御足労お掛けいたしております。日頃より都政運営の御理解、御協力、誠にありがとうございます。

今はラグビーのワールドカップからサモア戦がどうなるかとか、目の前のことと。2020年の大会ということと、それからじゃあその先、いつまでどうすれば東京は元気で、また武蔵村山市の課題が解決されて、また発展を続けられるか。そのようなビジョンの策定ということで、それぞれの地域の御事情、それからビジョンを伺っております。どうぞ、短い時間ではございますが、本日どうぞよろしくお願い申し上げます。

○**行政部長** それでは藤野市長、よろしくようお願いいたします。

○**武蔵村山市長** ただいま御紹介いただきました、武蔵村山市長の藤野でございます。本日はこのような場を設けていただきまして、大変ありがとうございます。また、いつも武蔵村山市の市政全般並びにとりわけモノレール延伸の御理解を多大にいただいていること、重ねて御礼を申し上げる次第でございます。

先日、敬老の日に都内で100歳を迎えられた方が、女性の御祝いの品として村山大島紬の半纏を贈呈したと聞いております。これは東京都知事指定の伝統工芸品にも登録していただいております、地元でも大変愛されております、そして地元の誇りでもあります村山大島紬を記念品に使用していただくことは、大変栄誉なこと嬉しく感じた次第でございます。ありがとうございました。

本日は多摩都市モノレール箱根ヶ崎方面への延伸と、狭山丘陵の観光連携事業への支援について、お話をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

はじめにモノレール延伸についてであります。こちらは多摩都市モノレールの起点、こちらにありますけども、上北台駅の端部の写真であります。先端が若干西側に、武蔵村山市方面へ曲がっておりまして、この軌道の周り方からしても、今後箱根ヶ崎方面へ延伸されるものと期待をしているところでございます。本来ですればあの一番先端に、次期整備路線武蔵村山市って書かせていただければありがたいなと思ってるんです。

そして今年の1月に東大和市と瑞穂町の町長と一緒にお会いした際には、直前に2市1町が共同で策定、公表したモノレール沿線まちづくり構想をお示ししながら、まちづくりの取り組みや、地元のモノレール延伸への思い等をお話させていただきました。その際、知事からは地域のまちづくりによる発展がモノレールの需要喚起に繋がる、その旨のお話をいただきました。

武蔵村山市としても、同様に延伸には地域のまちづくりが不可欠との認識の下、今年度組織を充実し、需要増加に資する沿線のまちづくりを推進しておりますので、そのうち2

つの取組を紹介させていただきます。

1つ目が新青梅街道沿道のまちづくりであります。東京都におかれましては、モノレールの導入空間ともなる新青梅街道の拡幅を進めていただいております。本事業はこれに合わせ、沿道の土地の高度利用等を図るもので、昨年2月には市東部地区の用途地域等の変更や地区計画の策定を行い、また、今年度もちょうど来週には、市西部の地区での同様の手続に入る等、沿線のまちづくりを着々と進めております。

2つ目が武蔵村山市が自ら行っている都市核地区の土地区画整理事業であります。本事業は宅地や道路の整備等、住みよい住環境の形成による永住人口の増加の外、モノレール駅の設置を見据えた交通広場の整備や、新青梅街道の拡幅部の用地確保を図る取組でもあります。事業全体の進捗率は、今年度末には事業費ベースで約80%に達する見込みであります。

また、本事業地区内の新青梅街道拡幅部の用地については、現在建物がほぼ100%移転された状況で、モノレールを迎えるべく事業は着実に進んでおります。こちらに写真がございいますが、奥に見えるのが新青梅街道で、手前の白い柵は既に確保した用地でございまして、こちらにも写真がございまして、電柱のない道路が整備されると共に、その沿道に新しい住宅が整備されて人口が増加する等、目に見えて地区の様子は変化しております。

モノレールの延伸は未来を見据え、環境や健康に優しい地域の歩いて暮らせるまちづくりだけでなく、広く多摩地域の持続的な発展に寄与するものであると考えております。

武蔵村山市といたしましては、モノレール延伸に向け、東京都や沿線市町と連携しながら最大限の努力を傾けてまいりますので、東京都におかれましては1日も早く事業化を図られると共に、令和2年度において必要な予算措置を講じていただきますよう、お願い申し上げます。

続きまして、狭山丘陵観光連携事業の支援についてであります。東京都の自然公園を策定し、公園のビジョンを策定し、素晴らしい自然文化の多様性と継続、また時間がありませんで端折りますけれども、武蔵村山市はまさに豊かな自然をたたえ、東京都と埼玉の県境に位置し、村山貯水池や山口貯水池の水源を中心に、大規模な5つの都立公園を持つ狭山丘陵の懐に位置しております。

以上、簡単ではございますけれども、私の方からのお話とさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○知事 御苦労様でございます。冒頭、多摩都市モノレールの延伸について、微妙なレールの方向性についてもお話がございました。この実現で開業区間と一体となって、南北方向の拠点が結ばれることで、多摩地域の活力や魅力がさらに向上するものと、このように考えております。

やはりお話がございましたように、地元でまちづくりについて、これまでも御議論を重ねていただいておりますが、このまちづくりの進捗踏まえまして、計画の熟度を高めていくということで、それぞれ関係の皆様方との協議、そして調整を進めまして、交通インフラの充実強化に取り組んでいきたいと考えております。

そして都立公園がある所ですよ。トトロのまちっていうか、トトロの村と言った方が

いいんでしょうか。この北の方は埼玉に繋がっておりますけれども、これ狭山丘陵っていうのは市街地にあつて、緑溢れる景観でございますので、これもまさに観光資源そのものかと思えます。

狭山丘陵には公園があつて、そしてそれも狭山公園から野山北、六道山公園等の都立公園になっておりますし、引き続き都立公園の指定管理者と共に事業を協力していきたいと考えております。

これまさに観光で緑、自然という、そういう意味では大変恵まれた地域だと、このように考えておりますし、また、できるだけ多くの旅行者を呼び込むという、そのような広域での取組が必要かと思えます。

それから多摩湖、そして狭山湖の名称で親しまれている貯水池もありますよね。村山上貯水池と村山下貯水池、それから山口貯水池ということで、水がめなわけで、これ安全でおいしい水の供給という意味でも、都民にとりましては重要な拠点であります。

観光面についての連携等については施設管理上での、要は水道のためということですね。具体的な御要望についてはまた関係局の方でもお話を聞かせていただくことになろうかと思えますけれども、交通の足を確保すると同時に発展をされる。ただ一方で自然は守るといふ、この両方のベクトルをうまく連携させていっていただければというふうに思っております。私からは以上です。

○行政部長 藤野市長、いかがでしょうか？

○武蔵村山市長 狭山丘陵の連携事業のこと、ちょっとお話がまだ十分私させていただいてないので、ちょっと補足をさせていただきますと、今つきました資料を御覧いただきますと、狭山丘陵周辺自治体では、狭山丘陵の自然資源としてブランドイメージを向上していこうということを考えております。

狭山丘陵をぐるっと囲む東村山市、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町、そして埼玉県では入間市、所沢市、そして今回は西武狭山丘陵パートナーズのNPO法人。5市1町の団体と1事業所で7者で連携して、狭山丘陵観光連携事業推進協議会をもう既に6回開催しております。そして作業部会も10回開催しております。

平成30年度には訪れてみたい、住みたい、住んでよかった、住み続けたいと思える魅力あるこのエリアを実現して、狭山丘陵観光連携プランを策定したところでございます。今後、本連携への東京都の参画、支援並びに東京都所有地等への規制の柔軟な対応をお願いしたいと考えているところでございます。

現在、武蔵村山市が狭山丘陵の観光連携事業の事務局を務めさせていただいていることから、このような要望にいたったわけでございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

特に私、先ほどトトロの森とお話をいただきましたけども、2年ほど前にモンゴルに行つたんですね。東京都は知ってます。区は知ってます。武蔵村山市っていうのはどこにあるんですか？って聞かれたんですね。ですから私そこでとなりのトトロを歌つたんです。あ、その歌は知ってる。じゃあこの辺ですか？って話をして、このようなものをお見せしたら、ああ、そこなんですかと言って、早速来ていただいたんです、モンゴル。それでこの狭山

湖を見ていただいたり、西武沿線をずっと見ていただいたら、武蔵村山市と思われちゃったんです、全部。そんなことありました。ただカーナビが埼玉県に入りましたとか言うんですよね、境目なもんですから。そこでちょっと笑いをかったんですけども、そんなところで、素晴らしいまちだという高い評価もいただいたところでございまして、これから増々観光連携事業、進めさせていただければということで、東京都所有地等のところでの規制の柔軟な対応っていうのは、特に武蔵村山市は観光納涼花火大会を去年41回が終わったんです。来年市政50周年ですので、来年42回と50周年を冠付けた花火大会やろうかなと思っておりますけども、都民の水がめなんでそこで花火を上げるということが。何とか許可をいただいていたんですけども、これからは湖には落ちませんので、ぜひ御協力をいただければと思っております。以上でございます。よろしくお願いいたします。

○知事 ありがとうございます。もうトトロというだけで皆さんイメージがわっと広がって、その意味では非常にブランディングもしやすいかと思えます。

一方で市の開発も進めなければならないという、このバランスが難しいところかと思いますが、武蔵村山は人口もこのところ増えていきますし、これからの足については多摩モノをさらにしっかりと中身を詰めていく等々、まだ課題はありますけれども、まちづくりの皆様方しっかりその辺りもお考えもいただいて、また御連絡いただければと思っております。

○行政部長 お時間になりますのでそろそろ終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。